

次期南海地震を想定した ハザードマップの作成事例報告 (室戸市の事例)

(一社)高知県測量設計業協会
酒井 寿彦

1

1.室戸市津波避難計画策定の目的・基本方針

東日本大震災を受け、室戸市では平成23年度に津波避難計画を策定した。

目的	室戸市において南海地震をはじめとする津波災害に対する住民意識の向上を図り、地域の特徴に応じた確かな避難行動を行うための、実効性のある地域津波避難計画を策定することを目的とする。
基本方針	津波対策のうち効果の高い「逃げる対策」を重点課題として推進することを基本方針とし、すべての浸水が予想される地域において、自主防災組織等が、より具体的な「地域津波避難計画」を作成するための支援を行うこと。

南海トラフの巨大地震による震度分布・津波浸水予測（高知県版）

- H17. 5 南海地震単独発生モデル 50mメッシュ
- H24. 5【第1弾】最大クラス発生モデル 50mメッシュ（地形データ：2003年）
- H24. 12【第2弾】最大クラス発生モデル 10mメッシュ（地形データ：最新）

現在見直し中

2

2.ハザードマップ作成の流れ

1.基礎資料収集

背景地図
航空写真
標高データ
南海地震の想定データ

GISでベースマップ作成



2.社会環境調査

歴史的な背景
地形・地質
土砂災害対策
水際構造物
ため池
既存の防災施設 など

調査結果をGISで整理

南海地震の想定
(H17.5高知県)

津波浸水予測図を
参考に1.5~2.0倍
の津波高さを想定

3.ハザードマップ作成

たたき台となるマップの作成
自主防リーダーへの説明会(旧5か町)
・避難の目安となる海拔
・表示項目・内容の検討
ワークショップでの意見交換(26地区)
・津波避難場所、避難経路の設定
・危険要因の抽出

安心マップとにならないよう留意



4.地域避難計画策定

地域の特徴を踏まえた「逃げる」計画
浸水予想地域
避難時間(概ね5分程度を目標)
津波避難場所、避難経路
避難困難地域の抽出
今後の課題

3

3.ベースマップに使用した地図データ等

小縮尺地形図



国土地理院：基盤地図情報 25,000

大縮尺地形図



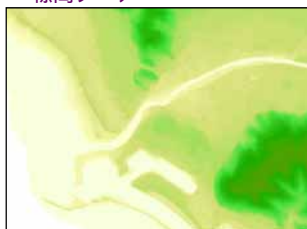
ゼンリン：Zmap-TOWN2 (1:2,500)

航空写真



室戸市

標高データ



国土地理院：2mメッシュ標高

津波予想データ(単独モデル)



高知県：50mメッシュ (H17.5)

津波予想データ(最大モデル)

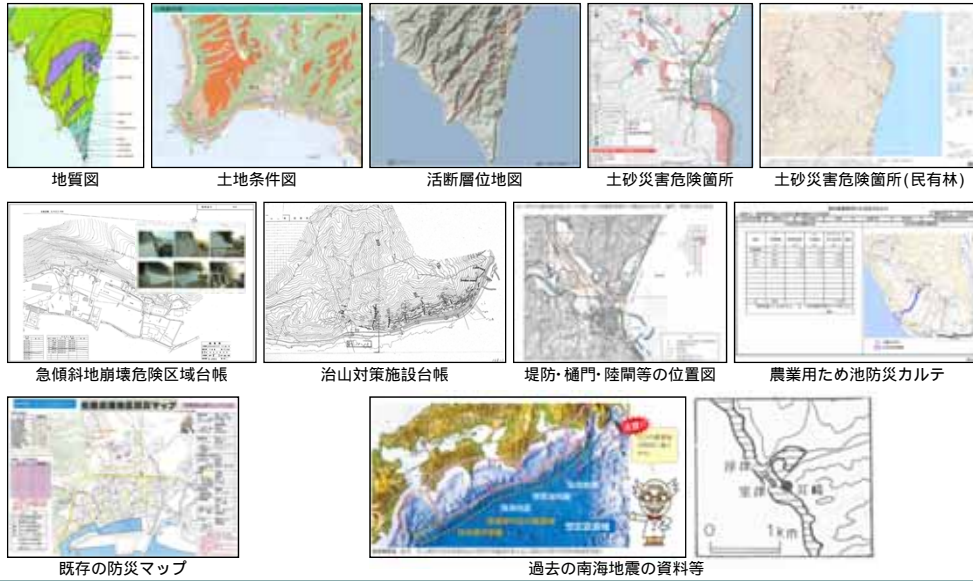


高知県：10mメッシュ (H24.12)

4

4.社会環境調査(既存資料)

国・県・市等で管理している様々な資料を収集し、ハザードマップ作成に必要なデータ・情報等を抽出



5

5.社会環境調査(現地調査)

現地の状況を調査し、危険要因や施設状況の確認、避難路や避難場所の候補地の抽出



6

6.収集した資料・情報をGISでデータ化

ワークショップ用のたたき台のハザードマップを作成



7

7.全体説明会

各地区のワークショップ開催に先駆けて、室戸市の旧5か町において説明会を開催
自主防災組織のリーダーと各地区の常会長が参加し意見交換(5回:計101名参加)



避難の目安とする海拔の設定

ハザードマップの表示項目や表示方法の設定

海拔の設定について

東日本大震災の事例を考慮し、国や県の新たな津波想定が示されるまでの**暫定的な避難の目安を海拔15m**とし、**状況によりさらに高い場所に避難できるような計画**とした。

当時の高知県の津波想定では、室戸市内で最も津波高さが高い元海岸付近で**最高水位が約7～8m**であった。東日本大震災の教訓から、**想定約2倍に設定**した。

8

8.ワークショップの開催

室戸市の各地区においてワークショップを開催(26回:計577名参加)



開催の目的

東日本大震災、南海地震に関する最新情報を共有する。

住民の方から津波痕跡、局所地形等の情報を得て、津波浸水予測図では示されていない可能性のある範囲(バッファゾーン)を設定する。

住民による避難目標地点、避難経路等の抽出・設定を行う。

避難の妨げとなる危険要因を抽出する。

津波避難困難地域の把握



住民の意見を
ハザードマップに反映

9.事例:室戸市津波防災マップ



10. 事例：室戸市津波防災マップ

室戸市津波防災マップ

① ゆれたら どこにおいても、まずは自分の身を守る！

② おさまったら 近くの高いところへ ざんじ逃げる！

③ 戻られん! 津波警報が解除されるまで絶対に戻らない！

11. 最後に

本業務では、津波ハザードマップの作成と共に、地区別に地域津波避難計画の策定と、抽出された様々な課題を整理し、今後の対策についてとりまとめています。



現在、平成24年12月に公表された、【高知県版第2弾】南海トラフの巨大地震による震度分布・津波浸水予測(最大クラス発生モデル)を基に見直しを行っています。

またハード対策も同時進行しており、津波避難困難地域に対しては、津波避難タワーの設置や、室戸市佐喜浜町都呂地区では、避難場所の確保が難しく、崖地に津波避難シェルターの設置が進められています。